

～アノマリーとパターンでみた2014年のドル円の動向～

為替市場は、様々なファンダメンタルズを織り込んで動いているため、その予想をするためには株式や債券や商品などの市場分析より多岐にわたる分析や手法が要求されます。

今回は、市場の習性としてアノマリー※を、トレンド(傾向)としてチャートパターンを取り上げてみました。アノマリーとしては2つ。

1つ目は、1月効果(January Effect)。当レポートvol.123では、NYダウ、日経平均株価の1月効果についてとりあげましたが、1月効果とは、1月の月次騰落率とその年の年間騰落率のプラス/マイナスが同じとなる傾向が高いという市場のアノマリーのことで、ドル円相場の騰落率を変動相場制となった1971年から2013年までの期間で検証してみた結果、64.3%という確率で1月効果が当てはまりました。(図表①)

ちなみに、先週末(1月24日)のNY終値は、102.31円。2013年12月末が105.31円なので、このまま1月末をむかえると、1月は陰線(ドル安円高)で、2014年は、過去の傾向によると64.3%の確率で年足陰線となり、105.31円より円高ドル安の水準で2014年12月末をむかえようと思われれます。

2つ目は、12支アノマリー。2014年は、“午年”にあたり、1971年の変動相場制以降、4回目。過去の3回(1978、1990、2002年)はいずれも円高ドル安となりました。そして、いずれも、円高、円安の転換点となっています。(下表及び図表②参照)
※アノマリーとは、合理的には説明できないが、よく当たるとされている経験則のことで、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

午年	ドル円年間騰落率	転換点
1978年	-19.0%	円高のボトム
1990年	-5.6%	円安の天井
2002年	-9.8%	円安の天井
2014年		

次に、チャートパターンから2つ(図表②参照)。1つ目は、年足陽線・陰線のパターン。1971年以降は、大勢では長期的円高ドル安の展開でした。1971年1月から2013年12月まで年足43本、そのうち、18本は年足陽線(ドル高円安)、25本は年足陰線(ドル安円高)、58.1%の確率で年足陰線の展開でした。注目されるのは、年足陽線が連続2本(7回中6回)と高い確率で生じていることです。(1974・75年、1981・82年、1988・89年、1999・2000年、2005・06年)。さて、今回は2012年、2013年と2年連続の陽線となりました。

2つ目は、16年サイクルボトム(円高のボトム)の存在です。相場は循環していると考えられます。一本調子でのトレンド相場となる相場は少なく、これまでの円高トレンドをみても、少し円安に調整しながら円高トレンドを形成してきました。1971円以降は2回のサイクルがみられます。サイクルボトムは、1978年、1995年、2011年。各々、7年、3年のドル高円安の時期を経験してきました。さて、今回はいかがでしょうか？

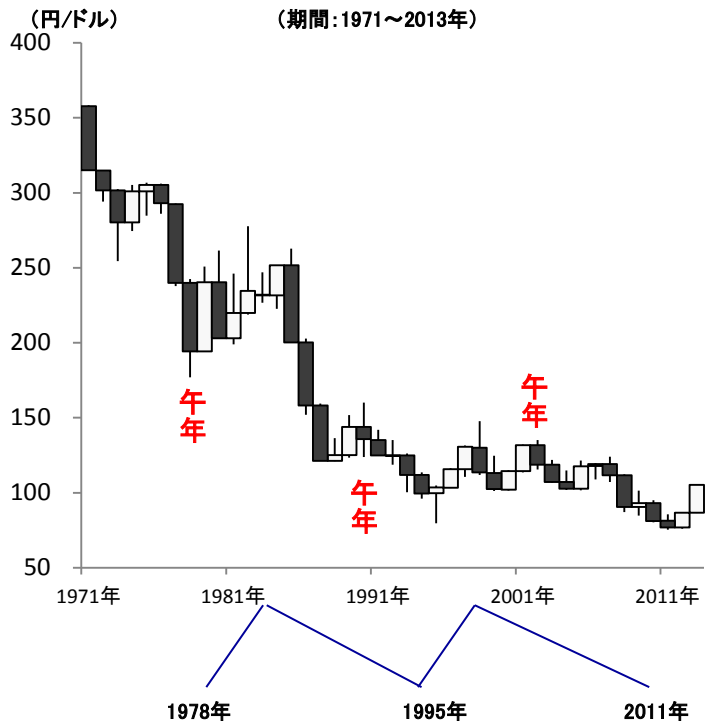
当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

【図表①:ドル円の1月効果と十二支アノマリー】

	1月(%)	年間騰落率(%)	1月効果	1月	年間	干支
1971	0.0	0.0				
1972	▲1.4	▲4.2	☆	●	●	子
1973	▲0.1	▲7.1	☆	●	●	丑
1974	6.6	7.4	☆	○	○	寅
1975	▲1.0	1.4		○	○	卯
1976	▲0.5	▲4.0	☆	●	●	辰
1977	▲1.6	▲18.1	☆	●	●	巳
1978	0.7	▲19.0		○	○	午
1979	4.1	23.7	☆	○	○	未
1980	▲0.4	▲15.5	☆	●	●	申
1981	1.8	8.2	☆	○	○	酉
1982	3.9	6.8	☆	○	○	戌
1983	2.2	▲1.3		○	○	亥
1984	1.3	8.6	☆	○	○	子
1985	1.3	▲20.4		○	○	丑
1986	▲4.0	▲20.9	☆	●	●	寅
1987	▲2.9	▲23.4	☆	●	●	卯
1988	5.4	3.1	☆	○	○	辰
1989	4.4	15.0	☆	○	○	巳
1990	0.5	▲5.6		○	○	午
1991	▲3.2	▲8.0	☆	●	●	未
1992	0.5	▲0.0		○	○	申
1993	▲0.1	▲10.4	☆	●	●	酉
1994	▲3.0	▲11.0	☆	●	●	戌
1995	▲0.0	3.9		○	○	亥
1996	3.4	11.8	☆	○	○	子
1997	4.8	12.9	☆	○	○	丑
1998	▲2.7	▲13.0	☆	●	●	寅
1999	2.4	▲9.8		○	○	卯
2000	4.7	11.6	☆	○	○	辰
2001	1.9	15.1	☆	○	○	巳
2002	2.3	▲9.8		○	○	午
2003	0.9	▲9.7		○	○	未
2004	▲1.4	▲4.3	☆	●	●	申
2005	1.0	14.7	☆	○	○	酉
2006	▲0.5	1.1		○	○	戌
2007	1.4	▲6.1		○	○	亥
2008	▲4.8	▲18.9	☆	●	●	子
2009	▲0.8	2.6		○	○	丑
2010	▲3.0	▲12.8	☆	●	●	寅
2011	1.1	▲5.2		○	○	卯
2012	▲0.8	12.8		○	○	辰
2013	5.7	21.4	☆	○	○	巳
2014						午

※○は陽線、●は陰線、☆は1月効果が有効な場合 64.3%

【図表②:ドル円の長期トレンド(年足)】



出所:図表①、②はブルームバーグのデータよりニッセイアセットマネジメントが作成